

## 投資事業評価調書(新規)

課室名	道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 金田 宣文 (藤田 宜久)	内線	4 3 8 9 ( 4 3 9 9 )
-----	-------	---------------------	-------------------------	----	------------------------

事業種目	交通安全 施設整備	事業名	事業区間	総事業費	約7.0億円
		特定交通安全施設等整備事業 (国) 4 2 6 号	豊岡市但東町 寺坂～矢根	うち用地補償費	約0.8億円
所在地				着工予定年度	完成予定年度
豊岡市但東町寺坂～矢根				平成18年度	平成21年度

事業目的	事業内容
<p>交通安全対策</p> <p>・大型車の自動車交通量が多く、見通しの悪いことによる人と車の輻輳時の危険性が高い当路線において、視距の確保と歩車分離による歩道の整備を行うことで、交通安全対策を推進する。</p>	<p>歩道整備・視距の改良</p> <p style="margin-left: 20px;">L = 1, 8 0 0 m</p> <p style="margin-left: 20px;">W = 2 . 0 m ( 2 . 5 ) m (片側)</p> <p>現 況</p> <p style="margin-left: 20px;">歩道なし</p> <p style="margin-left: 20px;">(負担割合 国1/2 県1/2)</p>

評価視点	
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車交通量、歩行者・自転車交通量が多い。 (自動車7,061台/日、歩行者62人/日、自転車86台/日)</li> <li>・大型車混入率19.3%</li> <li>・過去5年間に自転車・歩行者の交通事故(3件)が発生している。</li> <li>・死傷事故率(85.4人/億台km)</li> <li>・視距が34mであり、設計速度50kmの当該路線においては、21mの視距が不足しているため、カーブ区間中にある全但バス停留所へ向かう歩行者が道路を横断するのに非常に危険な状態である。</li> <li>・カーブ区間中に町道との交差点があり、追突や衝突事故が発生している。</li> <li>・住民参加による交通安全総点検を実施し、見通しが悪いことの指摘や歩道の必要性が提案されている。</li> <li>・歩道の連続性の確保(前後の整備状況・起点側 整備済、終点側 整備済)</li> <li>・但東中学校の通学路であり、合橋小学校、但東中学校の生徒が通学しており、出石高等学校へ自転車による通学を行っている。</li> <li>・冬季には路肩に堆積した雪で幅員狭小となり、自動車、歩行者にとって非常に危険な状態となる。</li> </ul>
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車・歩行者・自転車の安全が確保され、投資効果が期待できる。</li> <li>・円滑な事業執行に向けて、地元の協力体制等が整っている。</li> <li>・本事業区間L = 1, 8 0 0 mのうち、起点側L = 7 0 0 mが出石川との護岸兼用区間であり、出石川(下流)災害復旧助成事業と併せて当該事業を施工することで効率的な事業執行が可能となる。</li> </ul>
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道部に透水性舗装を採用し、雨水を地下に還元するなどの環境にやさしい構造とする。</li> </ul>
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京阪神方面からの観光バスをはじめとする大型車交通が多く、視距不足による見通しが悪いだけでなく冬季の積雪凍結によって、通学する児童生徒の危険性が高く歩車の分離が強く望まれる。</li> </ul>